

第2次新城市総合計画（案）パブリックコメント実施結果

○意見①

	提出された意見の集約	市の考え方
1	<p>P4 成果指標について</p> <p>第1次総合計画期間における財政運営の状況や財政見通しの記述が必要ではないか。</p>	<p>第1次新城市総合計画中の財政運営についてのご提案です。</p> <p>第1次新城市総合計画期間中の財政運営については、P50～52の基本計画に記載してありますが、全国平均値なども併記して分かりやすくしました。法律で定められた財政状況を示す指標は、合併後いずれも改善が進み、全国平均よりも良い状況になっています。</p> <p>人口減少等により市民税等の減収が見込まれますが、市民の皆様の安全安心を守ること、人を育てること、地域の暮らしを守ること、そしてまちの発展に関する事など、施策や事業についての不断の見直しと一層の選択と集中を進めることで財政健全化に向けた取り組みを進めます。</p> <p>財政の見通しの記述については、予想される経済成長率やここ数年の歳出分析等により、定量的な財政見通しを算出することは可能ですが、国の三位一体改革による大幅な地方交付税の削減や米国の金融機関の破綻に端を発する世界的金融危機（リーマンショック）など、地方財政に大きな影響を及ぼす突発的な事象を定性的な分析により予測するのは困難でありますので、長期的な財政見通しについては記載しないこととしました。</p>
2	<p>P10 第2次総合計画に向けて</p> <p>第1次新城市総合計画の評価・検証における施策の達成状況について、「達成」「達成できなかった」の根拠が不明ではないか。</p>	<p>第1次新城市総合計画の評価・検証についてのご質問です。</p> <p>施策の達成状況については、P4～6に記載してあります。市民満足度については目標の90%以上で、成果指標については目標の70%以上で概ね達成としています。</p> <p>第1次新城市総合計画では、市民満足度を基調とした成果重視型の行政経営への転換を図るため、すべての施策に「市民満足度」と「成果(活動)指標」を設定し、年度毎又は概ね4年毎の達成状況を確認しております。</p> <p>第2次新城市総合計画においても市民満足度を基調とした成果重視型の行政経営を引き継ぐとともに、数値のみではない評価手法などについても検討してまいります。</p>

3	<p>市の中心核や地域中心核についての記述がされているが、中心核から離れた地域の記述が少ないのではないかと。</p>	<p>土地利用構想(P32)についてのご意見です。</p> <p>土地利用構想では、「住みやすい・働きやすい・子育てしやすい暮らし環境を整え、安心して心豊かに暮らすことができるまちの形成」に向けた取り組みを進めることとしています。また、その際には、公共の福祉の優先、自然環境との調和、安全安心の確保及び地域特性や地域計画に配慮することを記載しており、これらは、市の中心核や地域中心核の含めた新城市全域に当てはまるものです。</p> <p>また、重点的な取り組みとして、「地域コミュニティの維持」を記載しております。日々の生活を営む「暮らしの場」についても適切な土地利用を進めてまいります。</p>
4	<p>合併特例債の特例措置である合併算定替による普通交付税の件について、何らかの説明が必要ではないかと。</p>	<p>地方交付税の合併算定替による算定額の段階的縮減についてのご提案です。</p> <p>合併特例期間(平成17年度から平成27年度)の終了に伴い、合併算定替による増加額が平成28年度から段階的に縮減しており、2021(平成33)年度からは本来の算定額となります。本市の財政運営上のリスク要因のひとつですので、他のリスク要因(人口減少による税収減・公共施設等の維持管理に係る財政負担の増大)と合わせ、基本計画の財政ビジョン(P52)に追記します。</p>
5	<p>個別計画の「公共施設の適正配置と効率的な管理を進めます」について、公共施設等総合管理計画に基づく各部局所管の建物、インフラの個別施設計画が必要であると思う。</p> <p>公共施設等総合管理計画は、総合計画とは別に考えているのか。公共施設等総合管理計画に限らず様々な分野の個別計画があると思うが、それらについても総合計画の中で記載すべきではないかと。</p>	<p>公共施設の適正配置についてのご提案です。</p> <p>公共施設等総合管理計画を始めとした様々な分野の個別計画については、第2次新城市総合計画の目指す方向性や考え方と整合を図ります。</p> <p>新城市公共施設等総合管理計画については、「行政経営 公共施設の適正配置と効率的な管理を進めます」に記載しています。また、公共施設等の維持管理に係る財政負担の増大は、本市の財政上のリスク要因になりますので、基本計画の財政ビジョン(P52)に改めて追記します。</p> <p>なお、建物、インフラの個別施設に係る方針については、新城市公共施設等総合管理計画に委ねることとなります。</p>

○意見②

	提出された意見の集約	市の考え方
1	<p>p 1</p> <p>第一次新城市総合計画における政策の評価を総括し、明らかにすべきである。</p>	<p>第1次新城市総合計画の評価・検証についてのご質問です。</p> <p>施策の達成状況については、P4～6に記載してあります。施策には、計画どおり進められなかったものや目標が達成できなかったものもあります。その逆に、計画以上に進捗したものや大きな成果を得られたものもあります。</p> <p>計画どおり進められなかった施策等については、その原因や課題の分析を行うことで、第2次新城市総合計画に反映するとともに、計画どおり進められた施策についても事業の進め方や目標設定の見直しなどを検討することで、更なる成果の積み上げを図ります。</p>
2	<p>p 6</p> <p>「市民ニーズを把握します」の目標が「達成」とされているが、現在の「市の広報・広報の充実、住民参加への取り組み」では市民ニーズを把握できていない部分もあるのではないかと。</p>	<p>市民ニーズを把握するための指標についてのご意見です。</p> <p>施策には、市民満足度と成果(活動)指標の2つの指標(目標)を設定しております。「市民ニーズを把握する」が達成したとしているのは、市民満足度の指標になります。</p> <p>しかしながら、成果(活動)指標である「市政報告会参加者数」については、目標を達成することができませんでした。第2次新城市総合計画においても、多様な市民ニーズを的確に把握することで、施策や事務事業に反映するように努めます。</p>
3	<p>p 7</p> <p>第1次新城市総合計画において、「2018(平成30)年の目標人口を50,000人と設定」したのは、見通しが甘かったと思う。とうてい達成できるはずのなかった数字ではないのか。</p>	<p>第1次新城市総合計画の目標人口についてのご意見です。</p> <p>P7～9に目標人口50,000人についての記載があります。</p> <p>第2次新城市総合計画では、本市の定住人口の増加はもとより維持さえも困難であることを受け止め、人口の「数」ではなく「質・つながり」こそが新城市のまちづくりに必要なこととしてしています。</p> <p>人口減少の速度を緩和させ、それに対応したまちづくりに取り組んで参ります。</p>
4	<p>p 7</p> <p>厚生省は2017年の合計特殊出生率1.43を公表しているにも関わらず、なぜ図3では、2012年までのデータしか載せていないのか。</p> <p>また、図2新城市の自然増減の推移は、なぜ2015年までしか載せていないのか。</p>	<p>合計特殊出生率についてのご質問です。</p> <p>厚生労働省は、年度毎の都道府県別合計特殊出生率を公表していますが、市町村単位のもの、国勢調査結果を基にした5年期単位のものしかありませんので、それを新城市数値として記載しています。</p> <p>国を2012年、新城市を2010年までの記載としたのは、2015年国勢</p>

		調査による新城市の合計特殊出生率が未発表であるため、近傍年までを記載したためです。
5	<p>p 1 0</p> <p>「このように新城市では、市民の関わり（協働）を重んじているため必然的に独自の制度が誕生し自治が深化・拡充しています。」という記載があるが、「市からの押し付けで強制的に参加している」「形骸化・マンネリ化している」と感じている市民もいるのではないか。</p>	<p>市民自治の取組みについてのご意見です。</p> <p>自治基本条例の制定や地域自治区制度の開始に始まり、若者議会や女性議会など、市民、地域、行政などが話し合う仕組みの整備や機会の増加、協働のまちづくりを「深化・拡充」の一面と捉えて記載しています。</p> <p>ご指摘のような「押し付けで強制的」、「形骸化・マンネリ化」と感じられることのないよう、今後、市民自治活動の趣旨や意義をしっかりと説明、共有していきたいと思えます。</p>
6	<p>p 2 4</p> <p>「市のカイゼンについて」は「市のカイゼンについて」に修正。「に」が抜けている。</p>	<p>ご指摘のとおり誤記です。「市のカイゼンについて」と訂正させていただきます。</p>
7	<p>p 2 7</p> <p>「地域の取り組みへのマネジメントサイクルの導入やマネジメントする人材の育成など地域経営基盤の充実・強化を図ります。」とあるが、この人材育成の対象者は誰を想定し、どのように育成するのか。</p> <p>その役割を担う方の負担増につながるのではないか。</p> <p>また、地域経営の基盤やコミュニティビジネスの具体的な取り組みはあるのか。</p>	<p>今後の地域課題に対する取組みについてのご質問です。</p> <p>地域自治区制度の導入からほぼ6年が経過し、各地域自治区では地域自治区制度を資金的に後押しする地域活動交付金や地域自治区予算などの協議がなされ、また、自分たちの目指すべき地域の将来像を話し合い、その目的達成のため「地域計画」の策定に取り組んできました。その結果、今年度末にはほぼ全地区で完成する状況となりました。次の動きとして大切なことは、目指すべき地域の将来像を実現するため、実際どのように取り組んでいくかということです。</p> <p>そこで、市では、地域計画に掲載された事業を確実に進めていくために、目標の管理や事業を行う人たちへの助言や指導、関係機関・団体との調整など、経営管理を行う人材を育成していきたいと考えています。この人材は、地域の資源であったり、課題であったり、各種団体であったり、人を知っていることは勿論、資金調達の知識や、運用方法、マネジメント、コーディネートなどの力量も併せ持っていることが理想と考え、今後、取り組みの具体化について検討していきます。</p>
8	<p>p 2 9</p> <p>「一人ひとりが地域社会を構成する大切なメンバーであることを認識し、自らの力と特性、役割を再確認し、主体的に活動します。夢や将</p>	<p>個性輝く多様な「ひと」の将来の姿についてのご質問です。</p> <p>「つながる力 豊かさ開拓 山の湊しんしろ」の実現に向け、「ひと」「ちいき」「まち」が三位一体となったまちづくりを進めていく必要が</p>

	<p>来について明確な目標を掲げ、その達成に向けてたゆまぬ努力をすることにより、豊かな知識と独創的な発想、失敗を恐れない強い心を身につけます。」とあるが、これは誰が誰に対して求めているのか。</p>	<p>あると考えています。</p> <p>誰が誰にというのではなく、それぞれを目指すべき姿のイメージとしたものです。100人いれば100通りの個性があるように、ここに記載されただけの姿ではありません。この姿にとらわれない様々な姿を追い求めます。</p>
9	<p>p 3 0</p> <p>「国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の将来人口推計では、2030年の人口は、38,771人と推計」されながら、市は「2030年の定住人口を41,000人と想定します。」とある。</p> <p>社人研の推計より2,229人も多くなるとする根拠を明確にしたい。</p>	<p>将来人口についてのご質問です。</p> <p>2030年の将来人口推計38,771人を41,000人としたのは、2017(平成28)年に策定した「新都市人口ビジョン」及び「新都市まち・ひと・しごと創生総合戦略」での取り組み効果を反映したものです。</p> <p>ただし、2017(平成28)年の新都市人口ビジョン等の策定の際には、将来人口推定の基となる人口は、2010年国勢調査人口までしかありませんでした。そこで、今回は、2015年国勢調査人口を用いて再度算出し直したものです。</p> <p>本市の人口に関する個別計画である「新都市人口ビジョン」「新都市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、暮らしにくさの解消や魅力的なまちづくりによる合計特殊出生率の向上と移動率の多い44歳以下の転出入の均衡などに取り組んで参ります。</p>
10	<p>p 3 0</p> <p>「はつらつ世代」は、「65歳以上の高齢者のうち、健康で地域活動や経済活動に積極的に参加したいという意思を持たれる方を総称する新都市の造語」とあるが、こういう造語が必要であろうかと思う。</p> <p>65歳以上というならば、仮に90歳で活動したい人がいたら、それも含めてはつらつ世代ではないか。</p>	<p>「はつらつ世代」についてのご意見をいただきました。</p> <p>65歳以上を高齢者として機械的に区別することなく、健康で地域活動や経済活動に積極的に参加したいという方を増やしていきたい、支援したいという思いから「はつらつ世代」という言葉を創作しました。また、「つながる市民」も同様に、交流人口、関係人口と「人口」として数で捉えてしまうのではなく、本市のまちづくりの理解者、協力者そして当事者となっていただきたいという思いを込めたものであります。また、年齢に係わらず頑張りたいという市民を応援、支援する姿勢に変わりはありません。</p> <p>ご指摘のとおり造語が目的となることなく、考え方や取り組み内容をしっかりと市民の皆様にご理解いただけるよう努めて参ります。</p>
11	<p>p 3 7</p> <p>「中心市街地等における賑わいの創出や魅力向上に取り組みます。」とあるが、中心市街地は空き家に空き店舗が増え、日中でも人通りが</p>	<p>政策目標「地域産業の振興で賑わいを創出します」についてのご質問をいただきました。</p> <p>第1次新都市総合計画では、駅前整備や商業活性化等事業を進めて</p>

	<p>まばらになるなど、寂しい状況である。</p> <p>そのような状況の中、第2次総合計画ではどのような対策を講じていくことになるのか。</p>	<p>まいりました。国道151号沿線における商業施設や医療機関等の立地が増加し、大型宿泊施設も開業しました。新城駅の利便性向上や駅前道路整備にも着手しております。商店街の皆様が中心となり取り組んでみえる軽トラ市は全国にその名をとどろかせるイベントになっています。</p> <p>第2次新城市総合計画では、起業・創業の促進、空家対策、中小企業支援などの一層の推進、市民、地域、企業、行政などに加え、交流人口や関係人口などの「つながる市民」との連携強化などにより更なる賑わい創出に努めてまいります。</p> <p>また、まちのにぎわいの基盤のひとつである土地利用についても、これまでの枠組みを超えた議論を進めることで、まちづくりの可能性を広げ、土地利用の選択肢を増やすことができるよう、見直しを進めます。</p>
12	<p>p 3 8</p> <p>「2010年新城市の合計特殊出生率1.41 新城市人口ビジョンでは2040年の目標2.07」とあるが、この根拠は何か。</p>	<p>新城市の合計特殊出生率についてのご質問です。</p> <p>新城市人口ビジョンでは、本市の合計特殊出生率は、2010年時点では1.41となっていますが、希望出生率は1.91と算出され、全国平均である国民希望出生率の1.83を0.08ポイント上回る結果となりました。そのため、国と愛知県の目標と合わせ、2040年の人口置換水準である2.07を目標として設定しました。</p> <p>第2次新城市総合計画では、子どもを産み育てやすい環境や安心して子育てできる体制づくりなど社会全体での子ども子育て支援、若者の夢や希望を応援できる条件づくりや生活の不便さの解消などにより、定住人口の減少の速度を緩和させ、ゆっくりと着実にバランスのとれた年齢構成への転換を進めて参ります。</p>
13	<p>p 4 0</p> <p>「ICTの積極的な活用により、行政手続の簡素化や利便性の向上、行政事務の効率化を図るとともに、組織が持つノウハウや市民の知恵などを効率的に共有します。」について、市民の知恵とは何か、また、どのように共有するのか。</p>	<p>行政経営の目標「情報技術でひと・ちいき・まちをつなげます」についてのご質問です。</p> <p>行政の持つ経営資源（財源、人材等）は、人口減少等により制約されていくこととなりますが、個人の価値観やライフスタイルの多様化などに伴い新しい課題や市民ニーズへの対応が必要になってきます。限られた経営資源の中での対応には限界がありますので、ICT等の新しい技術の積極的な活用や行政以外の資源である「高齢者の経験」</p>

		<p>「女性のネットワーク」「若者のアイデア」など、“市民の知恵”を活かしたまちづくりを進めて行きたいと考えます。</p> <p>市民の知恵を共有、活用する仕組みについては、第2次新城市総合計画を進めながら、市民の皆様と構築していきたいと考えます。</p>
14	<p>p 6 7</p> <p>「ハートフルスタッフ」が何を意味するのかわからない。</p> <p>市のホームページには、ツーハートという肩書もあったが、和製英語や造語は控えるべきと思う。</p>	<p>施策「確かな学力と郷土愛を育む学校づくりを進めます」についてのご意見をいただきました。</p> <p>ハートフルスタッフは、学校生活における子どもへの学習補助や生活支援等を職務としています。学校では特別な支援を必要とする子どもが増えており、担任教諭だけでは目が届きにくい状況にありますので、ハートフルスタッフによる学習面や生活面のサポートにより、支援を必要とする子どもが安心して学校生活を送ることができ、担当教諭の負担の軽減等にもつながっています。</p> <p>和製英語や造語につきましては、「わかりやすさ」「親しみやすさ」の観点など総合的に判断して適切に使用してまいります。</p> <p>なお、取組み内容をさらに明確にするため、「保護者、教職員及びハートフルスタッフの情報共有を図ります。」から「保護者、教職員が連携し、適応指導教室（あすなる教室）の充実等、いじめ対策や不登校対策に努めます。」に修正します。</p> <p>また、適応指導教室（あすなる教室）には注釈を付します。</p>
15	<p>p 7 7</p> <p>「ニューキャッスル加盟都市を含めたインバウンド観光」につき、客、経済交流、文化交流人口の2017年度実績が空欄であるが、基準となる何らかの実績を記載すべきではないか。</p>	<p>施策「グローバル人材育成と多文化共生を進めます」についてのご意見をいただきました。</p> <p>2018(平成30)年に本市で開催した「ニューキャッスル・アライアンス会議2018」では、13カ国15都市が参加し、文化・教育・観光・経済における交流と連携の一層の推進を共同声明として取りまとめ、具体的なプロジェクトを進めていくこととしています。</p> <p>成果（活動）指標の基準を2017(平成29)年としていること、またインバウンド観光旅行者数の把握方法が未定であったことから「ー」としましたが、ご指摘のとおり、インバウンド観光については、2017(平成29)年の「外国人宿泊者数」の統計がありますので、追記させていただくとともに、成果指標の項目について「ニューキャッスル加盟都市を含めた交流人口（教育・文化・ビジネス・観光等の分野）」と修正さ</p>

		<p>させていただきます。</p> <p>これまで構築してきたニューキャッスル・アライアンス加盟都市との交流を活かし、本市を始めとした東三河地域全体のにぎわい創出や人材育成などに取り組んで参ります。</p>
16	<p>p 1 2 3</p> <p>「市民価値を高めることのできる職員」とはどのような意味か。「市民価値」という曖昧な言葉を市民が理解できるように説明すべきである。</p>	<p>施策「市民価値を高めることのできる職員を育てます」についてのご提案をいただきました。</p> <p>第1次新城市総合計画の将来像である「市民がつなぐ 山の湊 創造都市」を実現するためには、職員が様々な能力や意識を身に付け、直面する問題解決に積極果敢に取り組んでいく必要があることから、求められる職員像を「市民価値を高めることのできる職員」としております。</p> <p>市民価値とは、「市民満足度の向上、市民からの高い評価であり、その結果により生じる市民の福祉向上や地域社会の発展」であります。そして、それを得るために最適な市民サービスとは何かを常に問い続け、改革・実行できる職員を「市民価値を高めることのできる職員」としています。</p> <p>この考え方は、第2次新城市総合計画においても継続して行きたいと考えております。</p> <p>なお、ご指摘いただきましたとおり、「市民価値を高めることのできる職員」の注釈を追記します。</p>
17	<p>市民を「ひと」としていること、山の湊を継続して使用することについての考え方を教えて欲しい。</p>	<p>市民を「ひと」とすること、「山の湊」についてのご質問です。</p> <p>第1次新城市総合計画の将来像である「市民がつなぐ 山の湊 創造都市」の市民（ひと）を継承しています。</p> <p>「山の湊」も同様に第1次新城市総合計画を継承するものです。信州方面からの陸運と豊橋方面への舟運の交通結節点として賑わいをみせた本市の様子を表した「山湊馬浪（さんそうばろう）」に由来し、3市町村合併に際して、鳳来と作手の山々の姿も重ねて「山の湊」としたものです。</p> <p>市民の皆様はもちろん、市民以外にも新城市のイメージとして認識していただけるようにイベントでの使用、刊行物等への掲載など、あらゆる機会を通じて紹介していきたいと考えています。</p>

18	<p>平成31年4月から開始される第2次新城市総合計画のパブリックコメントを、この時期（平成31年1月30日から2月28日）に実施しても、市民意見は反映されないのではないか。</p>	<p>パブリックコメント制度についてのご意見をいただきました。</p> <p>本制度は、市の政策形成過程における公正性の確保と透明性の向上を図るとともに、市民の市政への参画を促進することで、市民との協働による開かれた市政の推進に資することを目的としています。</p> <p>総合計画案の内容をより良いものにするために、市民から意見を募集し、意思決定を行うための参考とするものです。従いまして、いただきました関係意見等は関係機関において議論しています。</p> <p>今後も市政の重要な計画におけるパブリックコメント制度の活用や計画策定段階からの市民参加の保障など、新城市自治基本条例に定める「市民主役」「参加協働」「情報共有」の原則を元にまちづくりを進めます。</p>
----	---	--

○意見③

	提出された意見の集約	市の考え方
1	<p>■26 ページ 25 行目～26 行目</p> <p>「様々な評価基準や異なる角度からの評価」とは、すでにあるものなのか、今後、考案していくものなのかを具体的に示してほしい。</p>	<p>新たな視点「数・量」以外の評価についてのご質問です。</p> <p>様々な評価基準や異なる角度からの評価は、今後、市民の皆様とともに探求、創出していきたいと考えております。</p>
2	<p>■27 ページ 5 行目～6 行目</p> <p>①「包摂的な社会」の意味を 3 行目～5 行目で示していますが、一般的な意味を注意書きで記述してほしい。</p> <p>②「新しい絆」との記載は「今はない」という意味と受け取れるが、新都市にない「絆」を具体的に示してほしい。</p>	<p>「新しい絆」でまちづくりを進めますについてのご質問です。</p> <p>①「包摂的な社会」については、記載が無くても文章の意味を変えるものではないこと、分かりやすい文章とすることから削除します。</p> <p>②新しい絆についても、今後、市民の皆様とともに探求、創出していきたいと考えております。</p>
3	<p>■29 ページ全部</p> <p>「ひと、ちいき、まちの姿」の概念について</p> <p>①「ひと」の姿</p> <p>「人」には、パーソンとヒューマンの概念があると思いますが、ここでは、ヒューマンの概念が記載されていると思う。しかし、5 行目の『「ひと」の姿』だけは文章表現がパーソンになっていますので、すべての項目の語尾に、「している人がいます。」「つけた人がいます。」を付け、ヒューマンの概念となるよう統一するべきであると思えます。</p> <p>②「ちいき」の姿</p> <p>「地域」は、どこを示しているのか。次の「まち」の概念と混同していると思われる。さらに、新都市に実在する「新城地区」「鳳来地区」「作手地区」を示すのか、または、「地域自治区」の「地域」を示すのか、「行政区」を示すのかが分かっていません。</p> <p>地域自治区や行政区単位の表現であれば、1 段落目は、「新都市内各各地域の自然、歴史、文化等を受け継ぎ～中略～魅力を創造する地域となっています。」</p> <p>2 段落目は、「地域の住民が、他地域、行政等の各主体の連携や世代間の交流を促進することにより、地域の「意思をつくる場」としての機能を発展・強化します。</p>	<p>「ひと、ちいき、まちの姿」についてのご質問です。</p> <p>第 2 次新都市総合計画では、「ひと」「ちいき」「まち」の「つながる力」が「まちづくりの原動力」と考えています。そこで、目指すべき 2030 年の将来の姿を「個性輝く多様な“ひと”が活躍しています」「快適で潤いのある“ちいき”に暮らしています」「活力にあふれた“まち”になっています」としています。</p> <p>この「ひと」「ちいき」「まち」の実現のために、分野別の政策と施策を設定しています。また、施策の体系図で目指すべき姿を達成するための取り組みを次のとおりとしています。</p> <p>「ひと」…人材育成と確保、活躍促進に向けた取り組み 「ちいき」…暮らしの場をつくる取り組み 「まち」…都市機能の整備と産業振興の強化に向けた取り組み</p> <p>①「ひと」についてはご指摘のとおりヒューマンとしての「ひと」として考えております。</p> <p>②「ちいき」については、生活をする中でつながりが生まれてくる範囲を想定しており、ご指摘の行政区や地域自治区など暮らしの場と考えております。</p> <p>「意思をつくる場」については、地域協議会や行政区の会合にとどまらず、地域の寄り合いなど、地域のつながりなどを通して意思決定</p>

	<p>また、この「意思をつくる場」とはどのような意味かわかりません。 3段落目は、「地域経済循環の仕組みを確立し、地域で生み出された収益を地域住民に還元することで～中略～維持され、強化されます。」 ③「まち」の姿 「まち」は、市域全体のことでよいか。 また、3段落目の「ひと（個性ある人材）」とちいき（豊かな資源）」とありますが、（ ）書きの概念が、上記の概念と整合していないため、（ ）書きを削除したらどうか。</p>	<p>などをする場と考えております。 ③「まち」については、ご指摘のとおり市域全体を指しています。 また、「ひと（個性ある人材）」とちいき（豊かな資源）」については、ご指摘のとおり（ ）書きを削除します。</p>
4	<p>■39 ページ 16 行目 「クラウドファンディングなど新たな資金調達」の前に「既存のふるさと納税に加え」と加筆したらどうか。</p>	<p>行政経営の目標「将来に責任を持つ行財政運営をします」についてのご提案をいただきました。 これまで新城市が実施していないクラウドファンディングを新たな例示として記載しました。 なお、ご指摘のふるさと納税についてもしっかりと活用してまいります。</p>
5	<p>■39 ページ 25～26 行目 「自らが創業・起業の精神を持ってまちづくりに取り組む人材を確保、育成します。」は、行政経営方針ですので職員を指すと思いますが、職員は創業・起業できません。今後兼業を認めるのですか。 また、その「創業・起業の精神」とは何ですか。</p>	<p>行政経営の目標「公共私を支える人材となります」についてのご質問です。 「起業・創業の精神」とは、新しい事業を創造するためには、フロンティア・スピリットをもって取り組まなければならないということです。変化の激しい社会においては、多様な住民ニーズを常にリサーチし、コスト意識等を持ってまちづくりに取り組むことが今後重要であると考えています。</p>
6	<p>■39 ページ 29 行目 「心地良いお節介”をやくことができる」という表現は、雰囲気的な表現であり、こうした行政計画の文言としてふさわしくないと考えます。代替例として「声掛けができる」といったような表現の方が良いのではないかと。</p>	<p>行政経営の目標「公共私を支える人材となります」についてのご提案をいただきました。 ご指摘のとおり、構想や計画の表現では違和感を感じるかもしれませんが、「消防団や祭りを通じた地元付き合い」「地域のコミュニケーションが強く顔の見える環境にある」など、新城市の人付き合いの“雰囲気”を表す表現として使用したいと思います。</p>
7	<p>■49 ページ 12 行目の後に「また、地域のエネルギーを創出し循環させることで、エネルギー自治を確立し、地域経済の循環に寄与します。」を加</p>	<p>地域経済循環の創出についてのご提案をいただきました。 本市の地域特性を活かした取り組みであり、前向きな提案をいただきました。地域人材の循環を図ることも強力に進めるべき取り組み</p>

	<p>え、15行目は、 「地域で活躍する仕組みを進めることで地域人材の循環が図られることで、地域の社会関係資本の維持が図られます。」としてほしい。</p>	<p>みです。 地域経済循環の創出の仕組みについては、市民の皆様との合意形成をしっかりとしていく中で、様々な形を模索していきたいと考えています。</p>
<p>8</p>	<p>■63 ページ以降 (1) 全体的に、 ①成果指標と個別計画 成果指標が果たしてこれでよいのか。成果指標が各個別計画の整合しているのですか。 <例>104 ページ 施策 2-③ 地球環境問題に貢献します。 「再生可能エネルギー塾への参加者延べ人数」とありますが、開催回数によって変動する人数を指標としています。これは、指標としてふさわしくないと思います。 この場合、成果指標は、エネルギービジョンにある 2030 年目標数値「エネルギー消費量を 19%削減」「消費電力量のうち 30%を再エネで発電」「省エネで 8 億円節約＝稼ぎ」「再エネで 8 億円の稼ぎ」など整合のある目標値を設定すべきだと思います。 全ての計画の目標値を調べていないので、詳細を述べられませんが、この例のごとく各個別計画整合性（計画年度も含め）と設定の適正化について再度検証してほしいと思います。 ②様々な評価基準 26 ページで示されている「様々な評価基準」はどこにあるのでしょうか。</p>	<p>施策の成果指標等についてのご質問です。 ①成果指標については、それぞれの課が作成している個別計画等に沿った目標を掲げています。 今後、基本計画に沿った事務事業を実施していきますので、個別事業の目標についてはその際に改めて設定していきます。 ②様々な評価基準については、今後、市民の皆様とともに探求、創出していきたいと考えております。</p>
<p>9</p>	<p>■66 ページ 成果指標「男性の家事参加率」は、2022 年に「実施」となっていますが、どのように率を把握するのでしょうか。</p>	<p>施策「女性の活躍を支援します」についてのご質問です。 「男性の家事参加率」は、事業所へのアンケート調査やヒアリングなどで把握する予定でしたが、事業所などの負担を考え、市役所で把握できる「女性の起業者数」「女性の審議会への登用率」に変更します。</p>

10	<p>■84 ページ「取組み内容」</p> <p>交通系 IC カード利用の新城駅延伸や、1 時間 1 本の長篠駅までのダイヤを湯谷温泉駅（三河川合）までの延伸を要望するなど、「JR 飯田線の利便性向上」についての記述がほしい。</p>	<p>施策「理想的な地域公共交通網をつくります」についてのご提案をいただきました。</p> <p>市街地の住環境を整え、暮らしやすさの利便性向上を図り、魅力あるまちづくりを推進するため、新城駅及びその周辺整備に取り組みます。</p> <p>また、鉄道事業者や沿線自治体等と連携して JR 飯田線の魅力向上を図る取組みについて「まち」の施策の中に追記しました。</p> <p>なお、IC カードの延伸等については引き続き JR に機会をとらえ要望をしていきます。</p>
----	--	--

意見④

	提出された意見の集約	市の考え方
1	<p>行政組織の肥大化が進む中、小さな組織、部課長制度の改革を行う必要があると思う。そして人件費の抑制にも取り組んでいただきたい。</p>	<p>行政経営の方針についてのご意見をいただきました。</p> <p>新城市では、定員適正化計画に沿った職員採用や配置を進めており、組織機構についても市民ニーズに沿った体制づくりを実施しています。</p> <p>今後、組織・体制づくりを行う上で、組織上の効率化を進めることはもちろんですが、将来的には、行政サービスを行う上の労働力の確保も課題となってきます。これらを踏まえ、市民サービスの維持・向上を最優先に考慮しつつ、簡素で効率的な組織機構を構築するとともに、特定の課題には集中的に取り組めるよう組織横断型のプロジェクトチームなどの編成についても取り組んで参ります。</p> <p>人件費の抑制については、人事院勧告に沿った給与体系、計画的な職員採用を進めるとともに、アウトソーシングなど民間活力の導入などについても検討して参ります。</p>
2	<p>市の税金を生み出す農工商の予算を検討され歳入確保を図る必要があります。そのため農村の活性化、商業、工業（中小企業）含め市が求めている姿をしっかりと伝えてほしい。</p> <p>また、担い手となる中心的人材が不足しています。将来にわたって農・工・商を含む担い手不足対策をしっかりとっていただきたい。その為には担い手に対する資金や税の減免（当分の間）を検討する必要があります。</p> <p>農業法人が増えることが重要だと思います。農家の戸別経営ではなく、法人化によって共同経営体となり、農地・人材・肥料・農機・出荷など様々なものが集約され、担い手不足や戸別負担が緩和されると思います。</p>	<p>政策目標「農林業を成長産業にします」「地域産業の振興で賑わいを創出します」についてのご意見をいただきました。</p> <p>人口減少などを要因として、工業、商業、農業分野における後継者不足、担い手不足は大きな課題であることから、施策として高校生を中心に企業説明会、企業展、企業見学会などを開催したり、企業立地奨励金などを交付し人材確保を支援しています。今後とも行政、商工団体、中小企業（商工業者）、市民（消費者）、金融機関が連携し、円滑な事業承継や担い手確保など支援して参ります。</p> <p>本市のような中山間地域では、農業を活性化するための方策の一つである農地等の集約化を行うことは容易ではありませんが、持続可能な農業構造を構築するには、集約化を進め農業の法人化は必要不可欠であると認識しています。また、農業の担い手に対する資金については、新規就農者を応援する無利子資金や、ある一定期間無利子となる有利な農業制度資金があります。こうした国や県の制度を活用しつつ、さらに担い手不足対策に繋がる施策を関係部局と連携し、検討していきます。</p>

○意見⑤

	提出された意見の集約	市の考え方
1	<p>新都市には自然や歴史といった観光資源がたくさん存在し、市外からたくさんの観光客が来訪している。</p> <p>①行ってみたい②また行きたい③住んでみたいの3段階で考え、観光客と定住人口を増やすことを一体として考えることが必要ではないか。</p>	<p>新都市の観光資源についてのご意見をいただきました。</p> <p>今回の総合計画においても観光は非常に重要な施策と位置付けています。観光などを通じて生まれる「人のつながり」を捉えたまちづくりを推進し、観光客や新都市の出身者の方などを新たに『つながる市民』とP31で位置づけ、まちづくりのパートナーとなる仕組みづくりや活躍の場づくりを進めていきます。</p>
2	<p>農地の売買や貸借に関して厳しい面があるため、その面の規制緩和の必要性もある。農地や工業地の地目・用途変更という高い壁があるが規制緩和などして実現していただきたい。</p>	<p>土地利用構想についてのご意見をいただきました。</p> <p>今後のまちづくりを進めていくためには、土地利用の観点からも長期的に考えていく必要があります。そのため、ご指摘いただいた農地等の地目変更や用途変更などの土地利用に関する様々な制限などについても、P32に記載してありますが土地利用の選択肢を増やしまちづくりの可能性が広げられるよう検討を進めていきます。</p>
3	<p>市民の減少というのが一番大きな問題だと思います。なんとか人口の維持、さらには増えるようにしなければなりません。無駄な経費は削減し、有効なところへ投資してほしい。</p> <p>全国でも稀な若者議会があることは非常によいことだと思うため、若者の力が市民全体の利益となるような政策をもっと打ち出してほしいです。その前提として市民全体で考え、知恵やお金を出し合って協力しながら実行していく新都市であるとよいと思います。</p>	<p>これからのまちづくりについてのご意見をいただきました。</p> <p>日本は、少子高齢化・人口減少が進行する時代となっています。第2次新都市総合計画では、現実を直視し、人口減少を受け入れる形で人口推計を作成していきます。</p> <p>魅力ある市を目指して、若者議会をはじめ中学生議会や女性議会など様々な世代から幅広く意見をいただく機会を今後も設けるとともに、これからのまちづくりに「新しい知恵」や「新しい技術」などの行政分野以外の新しい資源の発見や発掘に努めていきます。また、地域の課題を地域自らが対処するとともに課題への対応を経済活動につなげるコミュニティ・ビジネスに取り組むなど、誰もが活躍でき、安心して暮らせるまちづくりを進めていきます。</p>